

### 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

#### 1 めざす学校像

<p><b>就労を通じた社会参加を促し、社会の変化や多様性に柔軟に対応できる力を育む学校</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の人権を尊重し、個々のニーズをふまえた適切で効果的な指導・支援を行い、就労と社会的自立を実現させる。</li> <li>地域、企業、福祉・労働等の関係機関と幅広く連携し、生徒一人ひとりが、社会で活躍できる力を育てる。</li> <li>教員の専門性を高め、実践的な職業教育の充実を図ることで、社会の変化や多様性に柔軟に対応できる力を育む。</li> </ul>
--

#### 2 中期的目標

<p><b>1 支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり</b></p> <p>(1) チームによる生徒の実態把握と効果的な支援の実施により、生徒の成長につなげる。 ※生徒向け学校教育自己診断「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」R9：80%以上維持（R4：73%、R5：83%、R6：85%）</p> <p>(2) 全教職員が連携して生徒の安全・安心を意識し、守ることができる体制を構築する。</p> <p>(3) 情報通信ネットワークを適切に活用するとともに、教職員の個人情報の取り扱いに対する意識を高め、個人情報を適正に管理する。</p> <p>(4) 偏見や差別を許さない、人権が尊重された教育を推進する。</p> <p><b>2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成</b></p> <p>(1) 1人1台端末を効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びを軸にした授業づくりをする。 ※教職員向け「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」R9：100%（R4：90%、R5：95%、R6：94%）</p> <p>(2) 生徒が社会の変化に対応できる力を育み、チャレンジする意欲や自己肯定感、達成感を向上させる。</p> <p>(3) 全教職員が連携して、進路学習・進路指導に取り組み、生徒一人ひとりに応じた就労を実現させることを目標とする。</p> <p>(4) 実習体験の積み重ねによる適切なジョブマッチングを重視するとともに、関係機関との連携を密にし、卒業1年後の職場定着率94%以上を維持する。 (R4：100%、R5：100%、R6：96%)</p> <p><b>3 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上</b></p> <p>(1) 初任者や経験年数の少ない教職員の育成を進めるとともに、全教員の支援教育の専門性を高める。 ※教職員向け「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」R9：80%（R4：73%、R5：65%、R6：81%）</p> <p>(2) 校務の効率化と働き方改革に取り組み、教職員の心身の健康の維持を推進する。</p> <p>(3) 生徒が相談しやすい環境をつくり、必要に応じて関係機関と連携し、チーム学校として対応・支援する。</p> <p><b>4 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進</b></p> <p>(1) 地域等との交流・連携を深め、生徒が活躍できる機会を創出する。</p> <p>(2) 中学校・支援学校中学部の生徒、保護者、教職員に、本校の教育活動に関して積極的に情報提供をする。</p> <p>(3) 積極的な広報を行い、高等支援学校の教育活動と魅力を地域や企業、関係機関に広める。</p>
--

#### 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和7年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>前年比マイナスポイントの項目が9つとなっているが、全体的に肯定率は高い数値を維持しており、日々の取組みの成果として現れている。次年度もこの水準を維持しつつ、肯定率が80%以下の項目を中心に引き続き、尽力していきたい。</li> <li>項目1「学校へ行くのが楽しい」の解釈（質問としての読み取り方）については、以前から質問項目としての妥当性や分析・考察の難しさがあると捉えている。</li> <li>生徒の実態に応じて『個別の教育支援計画』と『個別の指導計画』の目標、内容について、どのように伝えていくのかを検討する必要がある。また、日々の教育活動の中で、生徒が自分で立てる目標が多数あるため、整理も必要である。引き続き、生徒の実態に応じた工夫をしていきたい。</li> <li>生徒と教員の関係性に関わる項目について、前年度より否定的な回答数が減少したことは、日常的な各教員の寄り添い方や向き合い方によるところであり大いに評価できる。</li> </ul> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に肯定率は高い数値を維持している。本校の教育活動への理解をいただき、学校生活における生徒たちの成長を実感されているのではないかと捉えている。</li> <li>2年連続下がっていた回答率が89%（+16）に上がったことは大いに評価しており、就労に向けた学習や進路指導等における保護者との日常的な連携、協力体制がより良いものとなってきている結果と捉えている。</li> </ul> <p><b>【教員】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に肯定率は高い。</li> <li>昨年度大幅に減となった「教員間での授業の内容や方法等について情報交換や検討する機会を持っている」が、+13.5と大きく改善した。定例会議のスリム化を図りながらも、各部署でのフレキシブルな運用や、日常的な教員間での情報共有等がうまく取れている結果</li> </ul>	<p><b>【第1回】 令和7年7月15日</b>          &lt;広報&gt;について  <ul style="list-style-type: none"> <li>中学校への広報をどのように行っているのか。療育手帳が必要であることなど、中学校の教員向けにもっとアナウンスが必要なのではないかと。</li> <li>広い範囲から入学希望者を募ることを踏まえると、通学に関して不安を感じる保護者は多いのではないかと。通学に関して何かサポート体制があると良いのかもしれない。保護者は、卒業生が就職先でどのようなサポートがあって、どのように働いているのかを含めて卒業後の進路について情報を知りたいのではないかと。今、いきいきと働いている姿とむらのでの学校生活、授業を通して何を学んできてもらったかが結びつくと興味を持ってくれる保護者や生徒が増えるのかもしれない。</li> <li>広報をする際、発信の方法を考えるべきである。今は SNS が多い。枚方市では、職員に発信している。10周年行事の際、生徒が笑顔で楽しそうに過ごしていたことが印象的であった。楽しいことを発信していくとよいのではないかと。</li> <li>障がいのある人たちの生活の基盤はどこかを考えると、今は放課後等デイサービス（以下放デイ）となるのではないかと。保護者の相談相手が放デイのスタッフであることも多い。放デイに対しても、高等支援の広報をしてはどうか。</li> </ul>         &lt;学校経営計画について&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>進路の新規開拓についての目標は達成できるのか。</li> </ul> <p><b>【第2回】 令和7年10月28日</b>          &lt;学校教育自己診断の実施について&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>質問項目の一部文言修正についても異論なし。</li> </ul>         &lt;学校経営計画の進捗状況について&gt;  <ul style="list-style-type: none"> <li>企業側から大阪府教育庁に、障がい者雇用に関する問い合わせや相談があり、学校に紹介していただけたと報告があったが、それらの企業は、障がい者雇用の理解が十分にできている企業なのか。</li> <li>教育庁担当者の学校訪問について詳細を教えてください。</li> <li>定着率は大切だが、働く場が変わっても、働き続けることができる力を育てていくことが大切なのではないかと。</li> </ul> </p> </p>

## 府立むらの高等支援学校

である。今後も、さらに工夫を重ねていきたい。

- ・前年比-8.1となった「初任者を含む教職経験1～2年めの者、及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」については、次年度に向けた大きな課題として捉え、改善の工夫を図りたい。今年度、年度当初の業務過多を解消するために、校内研修や職員向けのガイダンスを意図的に減らしたことも結果に影響したのではないかと考えている。次年度は業務バランスを考慮しながらの工夫、改善が必要である。
- ・昨年度の学校教育自己診断の回答回収率 90%を大きな課題とし、100%の回収率をめざしたが、95%という結果となった。回答を業務の一環として捉える意識を職場全体で確認しながら、回答送信の有無をチェック用紙で確認する形式とし、全員の回答を確認したが、回答データの集計段階では2名が未送信であった。次年度に向けて手法の改善を図りたい。

- ・仕事を変えて、働き続けているような場合は、統計上、定着率に含まれるのか。
- ・就労継続支援A型は就職に含まれるのか。
- ・訓練分析シートを活用していても、訓練含め、1年以内に飽和していく。障がいの有無ではなく、働き続けることは難しい。今後、会社としてどのように向き合ってもらえるかを話し合う必要があるのではないか。本人と同じくらい、会社へのアプローチも大切になってくる。

<地域との関わりについて>

- ・むらの高等支援学校の存在や取り組みが、地元の枚方市の中でしか浸透していないと感じる。
- ・オープンスクール等への枚方市以外からの参加状況などはどうか。
- ・放課後等デイサービスへの働きかけについて、第1回会議で話題にあがったが、その後の取り組みはどうなっているか。
- ・村野地区での取り組みをよければ生徒たちにも紹介してあげてほしい。良い経験になると思う。

【第3回】 令和8年3月6日

<教育自己診断について>

- ・回答率が高く、取り組みが浸透していると感じている。
- ・「自分のことを理解してくれる」、「自分の進路について」の項目に比べ、「学校に行くのが楽しい」の項目で肯定率が低くなっていることについてどのような理由があるのか。

<交流について>

- ・高校との交流についての報告があったが、近隣には小学校、中学校もある。交流の幅を広げることも検討が必要なのではないか。
- ・高校との交流が楽しかったとの感想が生徒からあった。貴重な機会である。回数を増やしてほしい。
- ・交流は本校にとってだけでなく、高校にとっても価値がある。社会に出たとき共に働く環境となるため、継続的に、また幅を広げることを期待している。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 支援・教育活動の充実と、安全安心で活力あふれる学校づくり	<p>(1) 生徒の実態把握と効果的な支援の実施</p> <p>(2) 生徒の安全・安心を守る体制の構築</p> <p>(3) 個人情報の適正な管理</p> <p>(4) 人権を尊重した教育の推進</p>	<p>(1) ・個別の教育支援計画・指導計画を活用し、生徒に目標を明確に示すとともに、効果的な支援をチームで検討する。</p> <p>(2) ・緊急事態への対応として、併設校と連携し、実効性のある危機管理体制を確立する。</p> <p>・専門人材を活用することで、生徒が相談できる場を設ける。</p> <p>(3) ・校内ルールを点検し、実態に即したルールを定め、個人情報管理の適正な管理を進める。</p> <p>(4) ・教職員の人権感覚を一層磨き、人権意識の高揚を図る。</p>	<p>(1) ・【生徒】 「自分の個別の教育支援計画・個別の指導計画の目標を知っている」 肯定率：85%を維持 [85%]</p> <p>(2) ・防犯・防災計画の見直し・点検を8月末までに完了し、避難訓練を実施する。</p> <p>・スクールソーシャルワーカー、臨床心理士の活用を年40回以上</p> <p>(3) ・個人情報管理に関する校内ルールの見直し・点検を8月末までに完了する。修正が発生する場合は、研修等により校内周知を徹底する。</p> <p>(4) ・【教員】 「生徒の人権を尊重して日常の教育活動を行っている」 肯定率：90% [83%] ・教職員向けの人権研修を2回以上実施する。新転任向けに生徒指導上の人権研修を実施する。</p>	<p>(1) ・【生徒】 自立活動では個々の実態に応じた目標設定のもと、授業を行っている。就労に向けた取組の中で生徒が自分自身で目標を設定する場面も多く、振り返りを重ねた3年生の肯定率は80%である。目標をわかりやすく示し、伝える工夫が必要である。肯定率77%(△)</p> <p>(2) ・防犯・防災計画の見直し・点検を行った。生徒の状況に応じた避難方法のシミュレーションも教員で実施した。1月には「予告なし避難訓練」、また、非常食についての学習も行うなど、実際の災害発生を想定した訓練を実施した。(○)</p> <p>・スクールソーシャルワーカー、臨床心理士への生徒の相談回数は52回。活用、周知が適切であったと考えられる。(○)</p> <p>(3) ・各部署で、個人情報の取り扱いのルールが細かく定められており、適切に管理されている。首席、分掌長からの注意喚起も効果的であったと考えられる。(○)</p> <p>(4) ・【教員】 生徒の情報共有に努め、チームで対応することで多面的に状況を捉え、振り返る機会も増えたと考えられる。肯定率92%(○)</p> <p>・講師を招へいしての人権研修を1回実施した。教員向けに生徒指導提要改訂についての研修を管理職が実施した。(○)</p>

府立むらの高等支援学校

<p>2 就労を通じた社会的自立をめざす「生きる力」の育成</p>	<p>(1) 主体的・対話的で深い学びを軸にした授業づくり</p> <p>(2) 生徒の自己肯定感・達成感の向上</p> <p>(3) 生徒の企業就労支援</p> <p>(4) 就労率・定着率の向上</p>	<p>(1) ・コンテンツの共有化や研究授業・事例研究などによる情報共有を進め、ICT 機器をさらに活用した、わかりやすい授業づくりを進める。</p> <p>(2) ・各行事の目的や内容を再点検することで行事の精選を行い、生徒が主体的に取り組み、達成感を得られる行事の実施について検討する。</p> <p>(3) ・生徒一人ひとりに応じたきめ細かい進路指導を行う。</p> <p>(4) ・実習、雇用先の開拓、確保に積極的に取り組む。</p> <p>・卒業生進路先へのアフター訪問を継続的に実施して定着支援を行う。</p>	<p>(1) ・【教員】 「主体的・対話的で深い学びの実現をめざして授業を行っている」 肯定率：95% [94%]</p> <p>・【生徒】 「先生は授業や行事でタブレットを使って、わかりやすい学習をしてくれている」 肯定率：95%以上を維持 [98%]</p> <p>(2) ・【生徒】 「本校には達成感を味わうことができる活動がある」 肯定率：94%以上を維持 [94%]</p> <p>・【生徒】 「本校の行事は楽しい」 肯定率：90%以上を維持 [91%]</p> <p>(3) ・【生徒】 「先生は、将来の進路や職業について自分にあったアドバイスをくれる」 肯定率：90%以上を維持 [95%]</p> <p>・【保護者】 「学校は、将来の進路や職業について適切な指導を行っている」 肯定率：95%以上を維持 [98%]</p> <p>(4) ・新規開拓実習先 15 以上</p> <p>・卒業1年後の職場定着率：94%以上を維持 [96%]</p> <p>・企業との情報共有、関係構築、またアフターフォローのため、6月までに3月卒業生の就労先すべてに訪問する。</p>	<p>(1) ・【教員】グループワークや協働を重視した教育活動の中で対話的な学びが多く設定されている。肯定率95%(○)</p> <p>・【生徒】達成目標がわかりやすい教材の作成を心がけている。肯定率95%(○)</p> <p>(2) ・目標の94%には届かなかったが、3年生は肯定率が100%である。学年が上がるにつれて肯定率が上昇している。経験を積みながら役割を果たすことで達成感を得ることができていると考える。 【生徒】肯定率90%(○)</p> <p>・【生徒】肯定率86%(△) 行事の目的や内容について再点検が必要と考える。</p> <p>(3) ・【生徒】肯定率97%(○) 実習の事前、事後学習の取組みを個々に応じて丁寧に行った。</p> <p>・【保】肯定率95%(○) 入学時から段階的な進路学習に取組み、就労先とのマッチングと平行して移行支援計画を作成するなど、継続した進路指導を展開している。</p> <p>(4) ・新規に企業、事業所合わせて30以上開拓した。(◎)</p> <p>・定着率91%(△)</p> <p>・学校から紹介した企業、事業所に就労した卒業生に関しては6月までに1回めのアフターフォローを実施、情報共有のみならず、在校生のための関係構築にも努める。(○)</p>
<p>3 支援教育における専門性の向上と学校の組織力向上</p>	<p>(1) 支援教育の専門性向上</p> <p>(2) 校務の効率化と働き方改革</p> <p>(3) 教職員の組織力向上</p> <p>(4) 関係機関との連携</p>	<p>(1) ・OJT(On the Job Training)やOJL(On the Job Learning)により支援学校での勤務経験が少ない教員への育成・支援を行う。</p> <p>・特別支援学校教諭免許保有率が向上するよう、研修情報などを積極的に提供し、支援する。</p> <p>(2) ・校務運営にICTやグループウェアを十分に活用し、業務を効率化する。</p> <p>(3) ・学校教育自己診断について、教職員がそれぞれの立場から結果について幅広く考察ができるようシステムを構築する。</p> <p>・教員間での生徒情報の共有を円滑にし、適切な生徒指導・支援に努める。</p> <p>(4) ・事案に対して、チーム学校として全教職員が同じスタンスで対応できるよう、校内研修を充実する。</p>	<p>(1) ・【教員】 「初任者を含む教職経験1～2年めの者及び本校1年めの教職員に対する育成・支援が行われている」 肯定率：80%以上を維持 [81%]</p> <p>・特別支援学校教諭免許取得のための認定講習を周知、参加を促す。 [講習参加率70%以上]</p> <p>(2) ・1人あたりの時間外在校時間が前年度より10%以上減少する。 月平均17時間以下 [19.7時間]</p> <p>(3) ・学校教育自己診断の教職員の回答率を100%にする。</p> <p>・年度当初と年間の全体会議の場を通じて、教員間での生徒情報共有を実施する。</p> <p>・SSWのアドバイスを得ながら、福祉機関などの関係機関との連携についての校内研修を実施する。 [年1回]</p>	<p>(1) ・【教員】肯定率73%(△) 業務バランスを考慮した研修の改善、工夫が必要。</p> <p>・講習参加率20%(×) オープンスクール等もあり、夏季休業期間の短さも原因の一つと考えられる。</p> <p>・24時間(△) ※1月末時点</p> <p>(3) ・回答率95%(△)</p> <p>・職員朝礼では、ICTを活用し、リアルタイムで生徒情報を共有することができた。必要に応じて校内ケース会議も実施し、関係部署への共有も行った。(◎)</p> <p>・SSWに依頼し、関係機関との連携、子どもと家庭のサポートについての教員向け研修を実施した。(○)</p>

## 府立むらの高等支援学校

<p>4 魅力ある取組みの充実と情報発信による高等支援学校への理解促進</p>	<p>(1) 地域等との交流・連携強化と、生徒が活躍できる機会の創出</p> <p>(2) 中学校への積極的な情報提供</p> <p>(3) 本校の取組みや魅力を伝える積極的な広報</p>	<p>(1) 地域の小・中・高等学校と生徒間の交流を図る。</p> <p>(2) 地域の中学校や支援学校中学部に本校の教育活動に関して積極的に情報提供をする。</p> <p>(3) ホームページやブログを効果的に活用し、タイムリーに情報発信をする。</p> <p>・企業や事業所の個別学校見学を積極的に受け入れる。</p> <p>・併設校との連絡会を通じて、互いの教育活動に理解を深め、行事等で協力する。</p>	<p>(1) 異なる校種との新たな交流の取組みを1件以上実施する。</p> <p>(2) 地域の中学校に「むらのセミナー」や公開授業週間を案内し、合計で60名以上が参加する。 [41名]</p> <p>・オープンスクール、学校説明会の他にも見学の機会を設ける。また、要望に応じて訪問しての説明会を実施する。 [年2回実施]</p> <p>・北河内の中学校、支援学校中学部を中心に志願者数増を図る。 [今年度数 20%増]</p> <p>(3) 年間情報発信計画に基づき、滞りなく情報を発信する。 掲載回 50回以上[36回]</p> <p>・個別見学企業・事業所数 50以上[45]</p> <p>・併設校との連絡会を2回以上実施</p>	<p>(1) 近隣の高等学校と交流を1回実施。(○)</p> <p>(2) 60名以上の参加はかなわなかったが(50名)、進学フェアでは3名、教育庁主催の個別相談会では2名の中学校等教員からの問い合わせに対して積極的な情報提供を行い、その他電話での問い合わせにも丁寧に教育内容を説明した。(○)</p> <p>・要望のあった四條畷市、大東市にリーディングスタッフを派遣し、教育活動の説明を行った。来年度の派遣についても、すでに依頼をいただいております。他の自治体の中学校からも研修の依頼をいただいております。(○)</p> <p>・他の高等支援からの情報も取り入れ、アドミッションポリシーを改訂、オープンスクールと学校見学会の説明資料も教育活動がより伝わりやすくなるよう工夫した。志願者は45%増加した。(◎)</p> <p>(3) 掲載回 75回以上 (◎)</p> <p>・54以上 (○)</p> <p>企業や事業所だけでなく、府外からの見学も受け入れた。</p> <p>・管理職の連絡会を含め2回実施し、PTAの研修会を2校合同で実施した。また、本校の生徒の製作した製品を併設校の作品展に出展させていただいた。(◎)</p>
---	--	--	---	--